

公 民 倫 理

(100点)
(60分)

この問題冊子には、「現代社会」「倫理」「政治・経済」の3科目を掲載しています。解答する科目を間違えないよう選択しなさい。

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。
- 3 出題科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出 題 科 目	ペ ー ジ	選 択 方 法
現 代 社 会	4～39	左の3科目のうちから1科目を選択し、解答しなさい。
倫 理	40～67	
政 治・経 済	68～99	

- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 受験番号欄

受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄、試験場コード欄

氏名・フリガナ及び試験場コード(数字)を記入しなさい。

③ 解答科目欄

解答する科目を一つ選び、科目の下の○にマークしなさい。マークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。

裏表紙に続く。

6 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

7 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

8 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

倫 理

(解答番号 ~)

第1問 次の文章を読み、下の問い(問1～3)に答えよ。(配点 8)

青年期は、自我に目覚め、生きる意味を巡って悩み始める時期であると言われる。しかし、果たして、㉑悩んでいるのは青年だけなのだろうか。

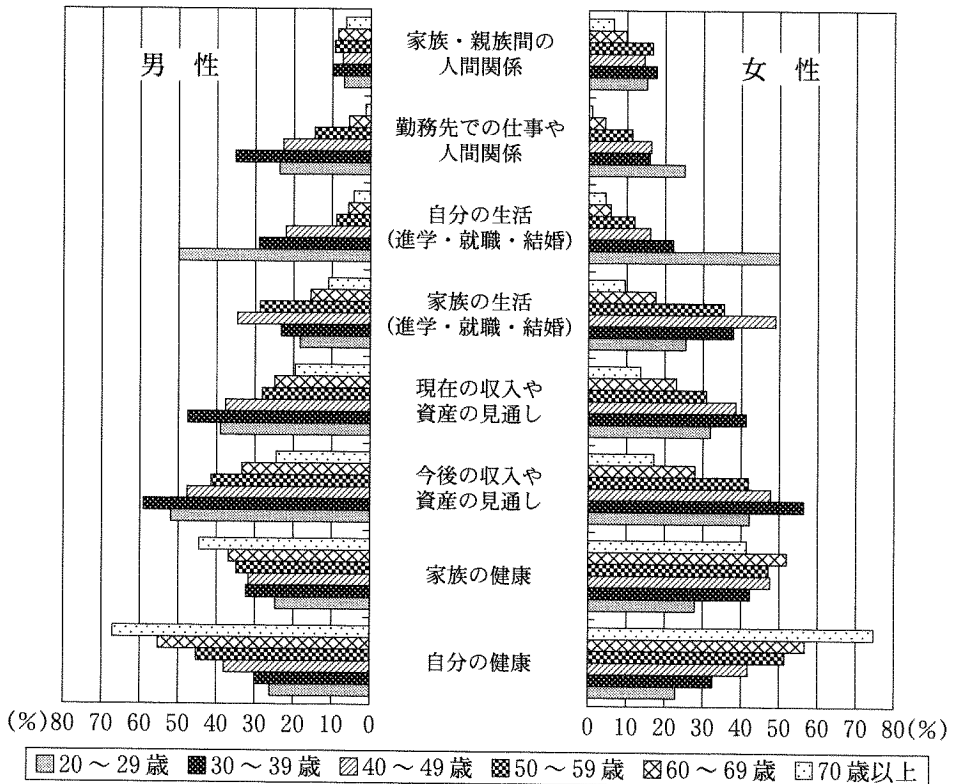
例えば、成人期にあたる親世代について考えてみよう。成人期において、人は家庭生活や職業生活のうえで様々な役割の変化を経験し、そこで遭遇する様々な問題への対応を迫られる。そして、これらの問題に対して、時に葛藤^{かつとう}を覚え、また時に現在確立している自身の自我同一性(アイデンティティ)の危機を感じることもある。

このように、青年期が、「自分自身を見つめ、自己を確立していく」初めての時期だとすれば、㉒成人期は、これまでの自分のあり方に危機を感じたときに、いったん確立した自己の問い直し、再確立が求められる時期である。

このように考えると、㉓人生は、常に自分と向き合いながら、成長し続ける旅だと言うこともできる。

問 1 下線部③に関して、次の図は 20 歳以上の男女を対象にした、悩みや不安を感じる内容についての調査結果である。この図の説明として適当でないものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 1

図 性・年齢層別にみた悩みや不安の内容(複数回答)



内閣府『国民生活に関する世論調査』(平成 19 年)より作成。

- ① 「収入や資産の見通し」に関しては、男女を問わず、現在よりも今後に不安や悩みを感じている人の割合が高い。
- ② 「勤務先での仕事や人間関係」に関しては、男性では 30 代が、女性では 20 代が、他の年齢層と比べて高い値を示している。
- ③ 「自分の生活(進学・就職・結婚)」に関しては、男女を問わず、20 代で悩んでいる人の割合が、他の年齢層と比べて高い。
- ④ 「健康」に関しては、男女を問わず、自分についても家族についても、年齢層が高いほど、悩みや不安をもつ人の割合が高い。

倫 理

問 2 下線部⑥に関して、自我同一性を見失っている心理状態の例として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 2

- ① 定年で、仕事を辞め、空虚さを感じていた時もありました。今、これまでの人生を振り返って自分史を書き始めています。思いのほか、たくさんの人にお世話になってきた自分を改めて感じています。
- ② 結婚を前提に特定の人と付き合っている友だちがおり、すごく生活が充実しているようにみえます。結婚を焦る気持ちも正直ありますが、今、仕事が充実しており、しばらく仕事をがんばろうかなと思っています。
- ③ 小学生の子どもがいます。学校に行ったり行かなかったりで、友だちとトラブルがあったのではないかと心配です。自分の会社での仕事も忙しく、大きな仕事の責任者となっています。いろいろと考えることが多いです。
- ④ 子どもも大学に入り、家を出ていきました。心の中にぽっかりと穴が空いた感じが続いています。自分の人生っていったい何だったのだろうか、自分の存在意義って何なのだろうか、いろいろと思い悩んでいます。

問 3 下線部㉔に関連して、エリクソンは、人生を八つの発達段階に分けて、それぞれの特徴について記述している。そのうち次の青年期以降の四つの発達段階ア～エとその特徴A～Dとの組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 3

ア 青年期

イ プレ成人期(成人前期)

ウ 成人期(成人中期)

エ 老年期(成人後期)

A これまで培ってきた自分自身に対する認識を基盤として、特定の人との友情、愛、性的親密さを得ることが求められる。

B 自分は何者なのか、何をなすべきなのかという自己についてのゆれを克服し、自己確立についての確信を得ることが求められる。

C いろいろなことがあったこれまでの人生のすべてを、自分のものとして、受け入れることが求められる。

D 次の世代を支えていく子どもたちを生み、育てていくことに対し、積極的に関与することが求められる。

① アーB イーA ウーD エーC

② アーA イーC ウーB エーD

③ アーA イーB ウーD エーC

④ アーB イーC ウーD エーA

⑤ アーA イーB ウーC エーD

⑥ アーB イーA ウーC エーD

倫理

第2問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

人間は喜怒哀楽の①感情をもつ動物である。ただ、喜びや楽しみの感情を分かちあって平安を期待することはできるが、怒りや哀しみの感情は他者への憎悪や怨恨へと変わり、時に復讐心を生み、復讐の連鎖を引き起こすことさえある。そして、そこには単に個人の問題ではすまされない現実がある。古来、人間はこのような現実といかに向き合ってきたのだろうか、先哲の思索を見てみよう。

古代社会では、復讐はある種の②正義と考えられた。例えば、③旧約聖書にもみられる「目には目を、歯には歯を」は、制限つきではあるが、復讐を認める考え方として知られる。しかし、この言葉に対して、イエスは「だれかがあなたの右の頬を打つなら、左の頬をも向けなさい」と教え、④クルアーン(コーラン)には、「その報復を控えて許すならば、それは自分の罪の償いとなる」とある。いずれも復讐の抑止を説いており、そこに寛容の心を見ることができる。

ギリシアでは、「大切にしなければならないことは、ただ生きることでなく、よく生きることなのだ」という言葉で知られる [4] が、「不正をなすこと、不正をし返すこと、……これらはいずれもいついかなる時にも間違っている」と言っている。また、インドでは、⑤ブッダが、「怨みは怨みによって鎮まることはなく、怨みを捨てることによってのみ鎮まる」と言い、復讐につながる怨みや憎しみを抱くことの非を説いている。

中国にあつては、⑥老子は、「怨みに報いるに徳を以てす」と、怨みのある者に報復したいと思っても、人間としての徳をもって対応したいものだと言う。また、他者に対する思いやりを [5] と位置づけた孔子は、「直を以て怨みに報ゆ」と言ったが、これもまた自分に怨みを抱く者に対しても公平無私な態度で対応すべきであると解釈することができる。いずれも、復讐を肯定する当時の社会に警鐘を鳴らしている。

このように、先哲たちは憎悪や怨恨を乗り越える方途を模索し、人間のうちにある寛容の心を喚起しようとした。しかし、復讐は21世紀の今も消滅していない。私たちは現代社会のこの現実を深刻に受け止め、一人ひとりの心に芽生える復讐心から目をそらさずに根気強く克服していく努力が求められる。

問 1 文章中の ・ に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

<input type="text" value="4"/>	{	① クリトン	② ゴルギアス
		③ ソクラテス	④ プロタゴラス

<input type="text" value="5"/>	{	① 敬	② 恕
		③ 仁	④ 忠

問 2 下線部㉓に関連して、エピクロスが提唱した生活信条として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 感情を乱す原因を避けて隠れて生きることによってアタラクシアを求め、安らかに暮らす。
- ② 極端な感情を避けて適切に選択できるメソテースの獲得と保持を求めて暮らす。
- ③ 美にあこがれるエロースの感情に突き動かされて、ひたすら美を求めて暮らす。
- ④ 欲望を抑えていかなる感情にも心を動揺させることのないアパテイアを目指して暮らす。

倫理

問 3 下線部①に関連して、アリストテレスの「調整的正義(矯正的正義)」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

- ① 各人の業績を精査し、それぞれの成果に応じて報酬を配分すること
- ② 加害者を裁いて罰を与え、被害者に補償を与えて公平にすること
- ③ 知性的徳を備えた人が習性的徳を備え、完全に正しい人になること
- ④ 法的秩序を保ち、人間として正しい行為をする状態に市民を導くこと

問 4 下線部③に関連して、次の文章は旧約聖書の言葉「復讐するは我にあり」をパウロが解説したものである。これを読んで、パウロが理解したこの旧約聖書の言葉の意味として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

8

だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で良いことを行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らさなさい。……次のように書いてあります。『復讐するは我にあり。……』と主は言われる。「むしろ、あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませなさい。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる」。悪に負けないで、善をもって悪に勝ちなさい。

(新約聖書「ローマ人への手紙」)

- ① 復讐してもよいのは、正当な理由のある場合だけである。
- ② 復讐すれば、後で必ず自らも復讐される。
- ③ 自ら復讐することも、他人に復讐を依頼することも禁じられる。
- ④ 自ら復讐せず、神に任せなければならない。

問 5 下線部㉑を聖典とするイスラームについての記述として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 9

- ① アブラハムと同じようにムハンマドもアッラーから遣わされた。
- ② アッラーとは全知全能で、子をもたない唯一絶対の存在である。
- ③ 財産に応じて行う喜捨は、為政者への献金として重要である。
- ④ メッカへの巡礼は、ムスリムたちがあこがれる務めである。

問 6 下線部㉒に関して、ブッダの教えとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 10

- ① 心を入れ替えて自分を低くし、子どものように無垢^{むく}な心となって天の国に入れ。
- ② 社会的規範としての礼儀を身につけ、自らを律して道徳的人格を完成させよ。
- ③ 不殺生などの道徳的戒めを守り、出家して無所有を徹底し恒常不変の創造神を直観せよ。
- ④ 無常・無我の真理を悟り、この世への執着を捨てて心の平静を実現して安らえ。

倫 理

問 7 下線部㊦に関して、老子が説く「争いを避ける生き方」の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 11

- ① 万物を利し、常に人が嫌う低い地に行き、いかようにも対応することのできる水のような生き方
- ② 絶えず生滅変化し、あらゆるものを受け入れ、煩惱にまみれたものを浄化する川のような生き方
- ③ 人為をさしはさまず、無為自然の世界に遊び、何ものにも^{とら}囚われない真人にならう生き方
- ④ 四季の循環をつかさどり、すべての人にその努力に応じた恵みをもたらす天の命に従う生き方

問 8 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 12

- ① 人間が復讐心を克服するには個人の意志だけでは限界がある。だからこそ、人間の知恵の限界を認め、寛容な絶対的存在に復讐を^{めだ}委ねて平和を実現する努力が求められる。
- ② 人間は感情に流されやすい動物である。だからこそ、いかなる不正に対しても怒りや憤りを感じることなく、寛容な心を発揮することのできる社会を実現する努力が求められる。
- ③ 人間の心には復讐心が生まれることがある。だからこそ、ただ復讐を非難したり寛容の心を唱えたりするだけではなく、自分自身の復讐心と向き合う努力が求められる。
- ④ 人間は復讐心と寛容の心との葛藤^{かつとう}に悩み続け今に至っている。だからこそ、葛藤しても意味がないことを認識し、復讐心か寛容の心かのいずれかを選び取る努力が求められる。

(下書き用紙)

倫理の試験問題は次に続く。

倫理

第3問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

人が死ぬことを他界するという。この世を去って他の世界へ移るという意味である。日本で他界はどのように語られてきたのだろうか。

『古事記』によれば、国土を生んだ伊邪那美命は火の神を生んで傷つき、この世を去る。13へ妻を追った伊邪那岐命は、妻の変わり果てた姿に驚いて逃げ帰り、そこへの道が大岩で塞いでしまう。伊邪那美命は岩の向こうから「人間を一日に千人殺してやろう」と叫ぶ。つまりこれは、神だけではなく人間の死についての物語でもある。ただし、他界は単なる死の国ではなく、神々の生々しい力が生きている本源的な世界ともみなされる。その場合、他界から神を招き、幸を授かるうとする営みが祭祀である。折口信夫は、そのように①幸をもたらす神や鬼をまればとと呼んだ。

仏教では、煩惱の海であるこの世に対して、悟りの世界を彼岸と呼ぶ。平安時代、末法の世の到来を間近にして、源信は『往生要集』という書物を著した。すなわち、彼岸たる浄土に②往って生まれるための修行方法を説いたのである。

江戸幕府に仕えた14の唱えた上下定分の理という言葉からも分かるように、当時、学問の主流では、現世に関心がおかれていた。③荻生徂徠の経世済民も同様である。もっとも、他界の思想が消えたわけではない。今日墓参の行事と考えられているお彼岸は、沈む太陽を拝み、遙かな極楽浄土を想い観る修行が一つの起源であったと言われる。つまりお彼岸の他界観は、伝統的な祖霊祭祀と浄土思想が④習合したものであると言える。例えば近世に成立した⑤古典落語からも、これと同じ他界観の習合が、この時代に生きていたことを読み取ることができる。

明治になり、文明開化の機運が高まると、⑥啓蒙思想や民権思想が盛んに議論された一方で、他界に関する思想は、公的な議論からますます閉め出された。日本の近代化とは、この世の合理化を意味したからである。

しかし、今日もお彼岸やお盆の行事は営まれている。柳田国男によれば、祖霊は里から遠くない山などにとどまると考えられた。それなら、日本人は多様な他界を、身近な自然のなかにそれとなく意識していることになろう。つまり、他界は単なる死後の世界ではなく、自然は単なる自然ではない。両者は渾然として、我々の命や魂の在り方と関わって、今もそこから、我々の在り方を問うているのである。

問 1 文章中の ・ に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- | | | | | |
|---------------------------------|--------|--------|-------|--------|
| <input type="text" value="13"/> | ① 常世国 | ② 黄泉国 | ③ 高天原 | ④ 葦原中国 |
| <input type="text" value="14"/> | ① 新井白石 | ② 熊沢蕃山 | ③ 林羅山 | ④ 山崎闇斎 |

問 2 下線部②に関して、次の文章を読み、 に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

狂言『節分』は、蓬萊^{ほうらい}という他界から日本に渡ってきた鬼が、ある屋敷の留守居の女性に一目惚^{ひとめぼ}れしてしまい、言われるままに隠れ蓑^{みの}や隠れ笠^{がさ}、打出^{うちで}の小槌^{こづち}などの宝を渡してしまう、といった話である。もらえる限りの宝を受け取った女性は、「福は内へ、福は内へ。鬼は外へ」と囃^{はや}しながら豆を投げ、鬼を追い払ってしまう。このように見ると、節分の行事において、「福は内」と叫ばれるその福とは であることが分かる。

- ① 他界の鬼がそれを目当てに訪れる、この世にある豊かさ
- ② 冥土^{めいど}の鬼がそれによって人間を誘惑する、見せかけの宝
- ③ 人間が扮^{ふん}した鬼が儀礼的に人々に分け与える村の豊かさ
- ④ 人々から豆を投げつけられる鬼が他界から運んできた宝

倫 理

問 3 下線部㉑に関して、『往生要集』が重視した修行として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① 一切の自力の修行を放棄し、ひたすら阿弥陀仏の慈悲の力にすがる。
- ② 他力にたよらず、ひたすら坐禅に打ち込むことを通して悟りを得る。
- ③ 仏や浄土の姿に心を集中させ、それをありありと思い浮かべる。
- ④ 他の教えを排し、妙法蓮華経への帰依を意味する題目を唱える。

問 4 下線部㉒に関して、荻生徂徠についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 17

- ① 聖人の言葉に直接触れるために古代中国の言語を研究する必要を訴え、後の国学の方法論にも影響を与えた。
- ② 孔子以来、儒教が重要視する孝を、人倫のみならず万物の存在根拠とし、近江聖人と仰がれた。
- ③ 実践を重んじる立場から朱子学を批判し、直接孔子に学ぶことを説き、『聖教要録』を著した。
- ④ 『論語』『孟子』の原典に立ち返ることを訴え、真実無偽の心として誠の重要性を主張した。

問 5 下線部①に関して、神仏習合の説明として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 18

- ① 神道と仏教が重なり合うことを意味し、それぞれの要素は変質しつつも消滅はしない。神社に神宮寺がおかれるなどはその例である。
- ② 神道と仏教が重なり合うことを意味し、神道または仏教いずれかが支配的に理解されることもある。本地垂迹説などはその例である。
- ③ 神道と仏教が重なり合うことを意味し、神と仏が同体であるとみなされることもある。権現信仰などはその例である。
- ④ 神道と仏教が重なり合うことを意味し、そのことで両者は一つの教えへと昇華される。近代の国家神道などはその例である。

倫 理

- 問 6 下線部㊸に関して、次の引用はある古典落語の一部である。場面は、とある事情から死地に赴くことに同意してしまったお人好しよの金蔵が、世話になっている親分に対して、「田舎へ旅に出る」と嘘うそをつきながら別れのあいさつをしようとしているところである。 に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

親 分 「で、田舎とって、どっちへいくんだ？」

金 蔵 「ええ、 へまいります」

親 分 「目あてがあっていくんだろうが、いつごろ帰るつもりだ？」

金 蔵 「盆の十三日には帰ります」

親 分 「ふーん、そんなに長くかかるのか。すると、だいぶ遠いな」

金 蔵 「ひとのうわさで、なんでも十万億土とか……」

(「品川心中」興津要編『古典落語(続)』所収)

- ① 東のほう
- ② 西のほう
- ③ 南のほう
- ④ 北のほう

問 7 下線部㊦に関連して、中江兆民から唯物論的な思想を学んだ幸徳秋水についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 国は人民によってできたものであると平易に民権思想を説き、主権在民をうたい抵抗権を認める私擬憲法を起草した。
- ② 国を支える農業と農民を大切に考え、農民が苦しむ公害問題を解決する運動に身を投じ、その解決の必要性を説いた。
- ③ 東洋の学問を実生活に役立たない虚学、西洋の学問を実生活に役立つ実学と呼び、後者を学ぶことの必要性を説いた。
- ④ 社会主義の立場から、当時の帝国主義を、愛国心を経とし軍国主義をよこいと緯とする 20 世紀の怪物と呼び、批判した。

問 8 本文の趣旨に合致する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 21

- ① 他界は、死後の世界として意識されるだけでなく、命の本源や神との関係、魂の行方ないしは死生観に関する種々の考えが重層的に含まれる世界として、今も身近なところに存在している。
- ② 他界は、死後の世界として意識されるだけでなく、人間と人間を取り巻く自然との理想的な関係として、またそれに基づく人間のあるべき未来を映し出す鏡として、今も大切なものとみなされている。
- ③ 他界は、死後の世界であるばかりでなく、我々の目をこの世の現実から背けさせる力を実際にもつので、祖先への敬意は大事にしつつも、この世の問題と区別し、日常にはもち込まないことが大切である。
- ④ 他界は、死後の世界であるばかりでなく、現実にこの世の出来事を左右する大きな力をもっているため、寺社にさんけいし、また、お彼岸やお盆を大切にすることによって、他界からの問いに正しく答えることが必要である。

倫理

第4問 次の文章を読み、下の問い(問1～8)に答えよ。(配点 24)

この世界における確実なことを見通す困難さは、闇に譬えられる。闇の中を生きていくためには光が要る。西洋近代哲学は④その光を理性に求め、それによって世界を隈なく照らしたそうとした。ここでは、西洋近代における理性の歩みを振り返り、現代における理性の意義を考えてみよう。

デカルトは、確信をもって人生を歩むために真偽を識別する新しい原理を探求し、哲学の第一原理となる⑥「コギト(私は考える)」を探り当てた。いわば闇を照らす光である。この光としての理性の能力を吟味したカントは、現実の人間がいかに欲望に流されやすくとも、③人間の意志は道徳法則を義務として受け止め、かつそれに従うるのであり、そこに理性的存在としての人間の自由があるとした。これに対してヘーゲルは、カントにおける理性と自由との関係がなお 22 なものにとどまるとした。彼は歴史を精神の自己展開の過程と把握し、そこで精神の本質である自由が実現されると考えたのである。このように、西洋近代哲学において理性は、世界を光の王国につくりかえる自由の原理と考えられたのである。

しかし、ガス灯や電灯で闇を追い払った近代文明が様々な問題を抱えていたように、理性による光の王国も多くの問題を孕んでいた。キルケゴールは、①倫理的であろうとすると絶望せざるを得ない人間の現実を直視した。そこからみれば、理性を通じた自由の実現という構想は、人間の現実を無視した空論にすぎない。このようなキルケゴールの考え方は、後の 23 などに影響を与え、実存主義の道を切り開いた。他方、ヘーゲル哲学を事実から切り離された空論に陥っていると批判したパースは、行動に立ち返って⑤思考を明晰にする方法を発展させ、プラグマティズムを提唱した。両者は理性を人間の生の営みのなかに位置づけて世界を捉え直し、それぞれの立場から現代における哲学の課題を明らかにしたのである。

戦争や環境破壊の危機に直面する現在、近代文明を推進した理性の見直しはますます差し迫った課題となっている。現代では、光としての理性の有する特権的な位置づけは失われ、⑦人間理性は人々の日常の行為や言語の働きから理解されるようになってきた。理性に対するこのような反省は、近代理性の光の及ばぬ暗がりを探り出し、人間社会のあり方に対して⑧新たな展望を与えようとする試みと言えよう。

問 1 文章中の 22 ・ 23 に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

22 ① 具体的 ② 抽象的 ③ 客観的 ④ 現実的

23 { ① ショーペンハウアー ② ベルンシュタイン
③ ヤスパース ④ フッサール

問 2 下線部④に関連して、人間の理性という光をもって世界を照らし出そうとした西洋近代の思想を啓蒙思想という。フランス啓蒙思想家の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 24

- ① モンテスキューは、人民の革命によって絶対王政を転覆すべきだとした。
- ② ヴォルテールは、ロックの経験論に学び宗教的な迷信や偏見を批判した。
- ③ デイドロは、王政の保護のもと、宗教を擁護する『百科全書』を編纂した。
- ④ サン＝シモンは、資本主義の科学的分析に基づいて理想社会を構想した。

問 3 下線部⑤に関して、デカルトは「コギト」から出発して精神を理解した。精神に関するデカルトの見解として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 精神は、人間の根源にある欲望を統御する良心であり、教育を通じて社会の規範が内面化されたものである。
- ② 精神は、誠実なる神によって人間に与えられた良識であり、信仰に応じて各人に配分されているものである。
- ③ 精神は、思考を属性とする実体であり、延長を属性とする物体である身体から明確に区別されるものである。
- ④ 精神は、客観的な真理を追究しようとする高邁の心であり、情念との関わりをもたずに存在するものである。

倫理

問 4 下線部㉔のように道徳を捉えたカントに対して、功利主義者ベンサムは行為の判断基準として行為の結果を重んじた。後者の考え方による発言として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 「私は、どんな状況下でも嘘をつくべきではないと考えているので、自分に不利益が及ぶとしても、正直に話をすることにしている。」
- ② 「私の行動原則は、その時々自分の快楽を最大にすることだから、将来を考えて今を我慢するようなことはしないことにしている。」
- ③ 「社会の幸福の総和が増大するとしても、不平等が拡大するのはよくないから、まずは個々人の平等を実現すべきだと、私は考える。」
- ④ 「自分の行動が正しいかどうか不安を覚えるとき、私は、その行動をとることによって人々の快楽の量が増えるかどうかを考える。」

問 5 下線部㉑に関して、キルケゴールはどのように考えたか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 27

- ① 本来の自己を見失って絶望する人間は、理性によっては根拠づけられることのない信仰への決断によって、本来の自己を回復できる。
- ② 現世の悪に絶望するキリスト者は、神から与えられた現世の務めに専心することによって、人間としての本来のあり方を獲得できる。
- ③ 超越的な神がもはや存在しない現実に絶望する人間は、自ら覚悟をもって価値創造に挑むことで、本来の力を獲得することができる。
- ④ 肉体を支配する悪の原理に絶望するキリスト者は、信仰による決断を通して、魂を肉体から解放し、本来の故郷に帰ることができる。

問 6 下線部㉔に関して、パースにおいて思考を明晰にするとは、行動を導く信念の意味内容をはっきりと捉えることであった。これに関する次の文章を読み、パースの考え方の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

28

信念の本質は、習慣を確立するということである。そして、信念の違いは、その信念によって生み出される行動の仕方の相違によって区別される。もしも信念が、行動の仕方という点で異なっているのであれば……、それらの信念の意識の仕方が異なっても、それらを異なった信念だとすることはできない。それは、ある曲を異なった調で演奏しても、異なった曲を演奏していることにはならないのと同じことである。表現の仕方で異なっているだけの信念はしばしば異なったものとされるが、その区別は架空のものなのである。

(パース「いかにしてわれわれの観念を明晰にするか」)

- ① 思考を明晰にするためには、同じ習慣的な行動であっても、異なった信念に導かれていることに注意すべきである。
- ② 思考を明晰にするためには、主観的な信念の違いにではなく、客観的な行動を導く意識の違いに注意すべきである。
- ③ 思考を明晰にするためには、信念の表現の違いにではなく、信念が生み出す行動の仕方の違いに注目すべきである。
- ④ 思考を明晰にするためには、人間の内面に隠れている意識や信念の相違を言い表す表現の違いに注目すべきである。

倫理

問 7 下線部㉑のあり方を批判的に検討した現代の思想家フーコーについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 29

- ① 西洋哲学を成り立たせてきた主体などの概念が覆い隠してきた問題を、歴史のなかで新たに問うために脱構築を主張し、理性の概念を捉え直した。
- ② 理性と狂気とが区別されるようになってきた西洋の歴史を分析し、確固とした理性という考えが歴史の過程の産物であることを明らかにした。
- ③ 非西洋の未開社会の現地調査を通して、西洋社会とは異なる独自の思考体系を見だし、西洋の理性的思考を特権化しりぞするような考えを斥けた。
- ④ 自己意識のなかに取りこめない他者性が現れる場を「顔」という言葉で表現し、そのような他者に向き合えない理性の暴力性に照明を当てた。

問 8 本文の趣旨に照らして、下線部㉒の「新たな展望」とはどのようなものであると考えられるか。その記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 30

- ① 近代理性は、具体的な日常のなかで生きるための知恵を提供できなかったために、戦争や環境破壊を招いた。今後は、日常の知恵を教える権威に従って、知恵に基づいて生きる道を模索すべきである。
- ② 近代理性は、社会的存在であることに伴う義務を軽視してきたために、社会を不安定にし、人間疎外を招いた。今後は、伝統的な社会的規範の意義を見直し、義務を自覚する道を模索すべきである。
- ③ 近代理性は、未開の闇を克服して光の文明社会を建設しようとしたが、自然破壊など新たな野蛮に陥った。今後は、理性のみならず感情にも目を向け、内なる自然に従う道を模索すべきである。
- ④ 近代理性は、自由を実現する主体として優越的な地位を与えられてきたが、様々な問題の源ともなっている。今後は、自由の主体としての理性を捉え直し、対話によって生きる道を模索すべきである。

(下書き用紙)

倫理の試験問題は次に続く。

倫理

第5問 次の文章を読み、下の問い(問1～7)に答えよ。(配点 20)

正しい行為とは何か。この問いは、^{だれ}誰が、どのような状況で発するのかによって、答えが変わり得る問いである。だからこそ、先哲は現代に至るまで、㉔誰の立場から見ても正しいと思える行為の原理やルールを発見しようとしてきた。

しかし、既存のルールが本当に正しい行為を命じているのかどうかを反省することなく、ただルールに従うことが正しいと考えられてしまったとき、悲惨な事態が生じることがある。例えば、ナチス・ドイツのファシズム体制のもとで、ユダヤ人を強制収容所へ送る任務についていたアイヒマンは、第二次世界大戦後、㉕人道に対する罪などが問われた裁判のなかで、自分は法律に忠実に従い、自分に課せられた義務を果たしているということに疑いを抱かなかつたと述べた。

大戦を経験した後、㉖個人を平等に尊重する社会の構成原理を見いだそうとする従来の試みのなかから、新たな傾向が現れた。それは、私たち一人ひとりが具体的な状況に目を向け、人々が㉗現に感じている苦しみを和らげるために何ができるのかを考えようとするものである。心理学者のキャロル・ギリガンは、人と人との間にすでに存在している関係性のなかで他者を気遣うことや、他者との間に新しい関係を築こうとすることの道徳的重要性を説き、そのような倫理観を㉘ケアの倫理と呼んだ。

ケアの倫理は、㉙家族における子どもと親といった、身近な関係のみにふさわしい倫理と考えられがちである。しかし、私たちは、そうした関係を越え、自分とは異なる状況におかれている人々の存在を想像することができる。皆が正しいと考えるルールに従っているとしても、それだけでは、他者からの必要な配慮が得られずに苦しみ続ける人がいるかもしれない。そのように問い直すことは、より広い社会のなかで様々な状況におかれた私たち一人ひとりに目を向けることの大切さを気づかせてくれる。だとすれば、A。

問 1 下線部㉔に関して、このようなルールを確立しようとした第二次世界大戦後の哲学者の一人にハーバーマスがいる。ハーバーマスの考え方についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① 他者の権利を侵害しない限り、私たちの自由は平等に尊重されるべきである。ただし、自由競争によって生じる不平等については、社会において恵まれない立場にある者たちの生活を改善する限りで許される。
- ② 人は、互いに合意に至ることを可能にするような理性をもっている。したがって、そのような理性を対等な立場が保障されたうえで使用するならば、万人が同意することができる社会のルールを発見できる。
- ③ 人は、互いの自由や財産を権利として尊重するべきだというルールを理解できる理性をもっている。そして、各人の自由や財産をより確実に保障するために、合意のもとに政府を設立する。
- ④ 自己利益だけでなく、万人に共通する利益が第一に考えられるべきだという一般意志が存在する。そして、それを強制するルールに基づく社会を築けば、個人の権利と自由は保障される。

問 2 下線部㉕に関連して、第二次世界大戦後、国家や軍の非人道的な行為を防ごうとする努力が重ねられている。そのような国際社会の試みに関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 32

- ① 1990年代に地雷禁止国際キャンペーンが始まり、オタワ条約が結ばれたが、軍事大国のアメリカ合衆国やロシア連邦などは批准していない。
- ② 1990年代にルワンダ内戦などで犯された罪を裁くために、臨時の国際刑事裁判所が設置されたが、常設の国際刑事裁判所はまだ設置されていない。
- ③ 非人道的な兵器の使用を防ぐために国際社会は努力しているが、化学兵器については同意が得られず、国際条約はまだ採択されていない。
- ④ 東西冷戦下では、核を保有することで戦争を抑止できるとする議論が盛んであったが、現在では保有国における核兵器製造は禁止されている。

倫 理

問 3 下線部㉔に関して、あらゆる人びとが平等に尊重されるための取組の例として適当でないものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 33

- ① 国際連合教育科学文化機関憲章(ユネスコ憲章)は、第二次世界大戦において被災した子どもを救援することを目的とし、児童と青年が個人として生活するための十分な社会整備がなされるべきだと宣言している。
- ② 世界人権宣言は、第二次世界大戦後に諸国民の友好関係の発展を奨励し、世界のすべての人が、人種、皮膚の色、性、宗教などによって差別を受けることなく、生まれながらに平等であることを主張している。
- ③ 児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)は、子どもたちの完全で調和のとれた発達を促すために特別な保護を与える必要性を認識し、子どもへの差別を禁じ、その自由と権利を実現することを宣言している。
- ④ 女性に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約(女子差別撤廃条約)は、社会と家庭における伝統的な性別役割を変更することも、男女の完全な平等を達成するためには必要であると主張している。

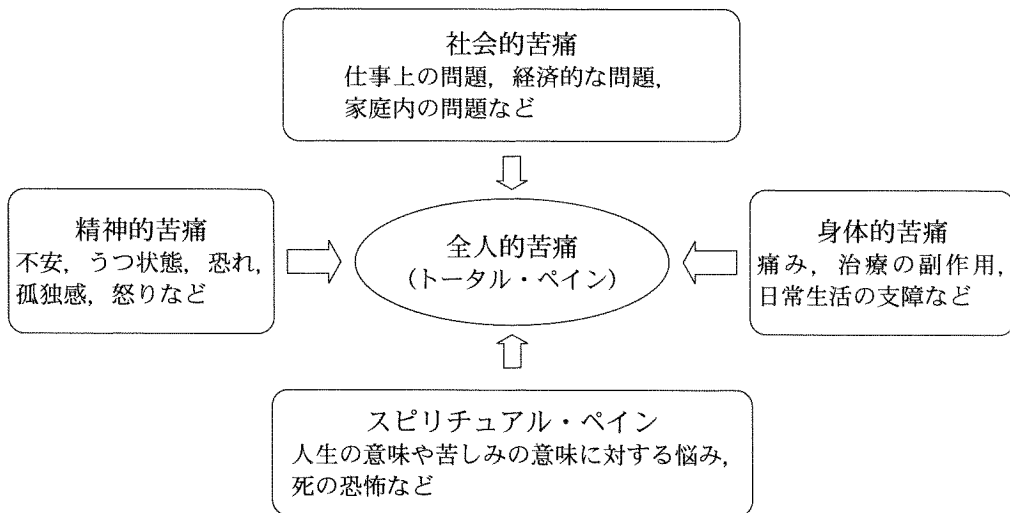
問 4 下線部④に関連して、世界保健機関(WHO)は、次のように緩和ケアを定義した。その定義における苦痛については、図のような説明が考えられる。定義と図を踏まえたうえで、緩和ケアの考え方として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。 34

定義

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、疾患の苦痛、身体的問題、精神的問題、社会的問題、スピリチュアルな(霊的な、魂の)問題に関して、早期からきちんとした評価を行い、それが障害とならないように予防したり、対処したりすることで、クオリティー・オブ・ライフ(生活の質、生命の質)を改善するためのアプローチである。

(世界保健機関 Web ページ)

図



- ① 緩和ケアは、末期治療に限定されるものではなく、治療の過程に生じる様々な苦痛を和らげようとするアプローチである。
- ② 緩和ケアが改善しようとしているクオリティー・オブ・ライフには、患者本人だけでなく、患者をとりまく家族の生活の質も含まれる。
- ③ 緩和ケアという考え方は、患者が感じている苦痛を分類し、ケア・スタッフが、患者の身体的苦痛に集中して治療できるようにする。
- ④ 緩和ケアという考え方は、治療の間に変化する患者のニーズにこたえるために医療従事者と患者のコミュニケーションを重視している。

倫理

問 5 下線部㉔に関して、次の文章は、ギリガンがエイミー(11歳女)とジェイク(11歳男)の二人に行ったインタビューを分析したものである。その分析のなかで、ギリガンは、エイミーの責任感にケアの倫理が典型的に表れていると考えた。次の文章も参考にしつつ、ケアの倫理の説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

35

ジェイクにとっての責任は、他の人のことを考えて、自分がしたいことは我慢することを意味しています。それに対して、エイミーにとっての責任は、他の人が彼女からされたいと願っていることをすることを意味しています。二人とも、人を傷つけることを避けようとしているのですが、異なる仕方で見ているのです。ジェイクは、攻撃的なところを見せると人は傷つくと考えるのですが、エイミーは、応答されないことで人は傷つくと考えるのです。

(キャロル・ギリガン『もうひとつの声』)

- ① ケアの倫理によれば、私たちには他者との関係性が大切なので、他者に対する危害を禁止するような一般的なルールが存在する。
- ② ケアの倫理によれば、人は生きるためお互いに配慮し合うべき存在であるから、積極的に他の人々を気遣わなければならない。
- ③ ケアの倫理によれば、私たちは自分の行為が人を傷つけることがあり得ることを認識し、他者に干渉することは避けなければならない。
- ④ ケアの倫理によれば、私たちが他者を頼りにするのは当然であり、そのことによって他者が傷つくかもしれないとまでは考えなくともよい。

問 6 下線部①に関連して、現在の日本社会における家族のあり方に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 36

- ① ライフスタイルに関する考え方が多様化し、家族構成員同士が性別にとらわれず世話し合う傾向が高まったので、一世帯あたりの家族構成員数は増加傾向にある。
- ② 「人は女に生まれえない。女になるのである」という言葉に表れている意識が広く浸透し反省を促したので、夫も妻と同じように家事・育児を担うようになってきている。
- ③ 男性に比べ女性は、結婚や育児を理由に仕事を辞める者の割合が依然高いが、子が成長するにつれて、パートタイム労働者として再就業する者が多い。
- ④ 男女共同参画社会基本法の施行以降、女性の労働者が増加した結果、夫婦どちらかの親と同居し、親に家事などを分担してもらおう傾向が高まっている。

問 7 本文の趣旨を踏まえて、Aに入れる記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 37

- ① 正しいとされている行為のルールは、私たちの身近な人間関係を問い直す機会を与えてくれ、より公平な家族関係を築く可能性をもっている
- ② 正しいとされている行為のルールは、公平な社会という原理には問題があるとして、社会をより親密な関係へと作り変える可能性をもっている
- ③ ケアの倫理は、私たちが現在築いている関係には問題があるとして、人との密接な関係を批判的に問い直す可能性をもっている
- ④ ケアの倫理は、私たちが正しい行為のルールに従っているだけでは不十分であるとして、社会を批判的に問い直す可能性をもっている